

群馬県バイオマス活用推進計画進捗点検調査票（事業別個票）

調査対象年度 平成24年度

バイオマスの種別	取組方針		個票 No
畜産資源	a 「群馬県家畜排せつ物利用促進計画」に基づく取組	家畜排せつ物の利用を促進し、資源として有効活用を図ります	2

(1) 事業の実施状況

事業名	事業概要	事業評価
地域と調和した畜産環境確立事業 平成12～28年 (担当課) 畜産課	【現状認識・課題】 家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律「以下(家畜排せつ物法)」に基づく管理基準は、ほぼすべての法適用対象農家において遵守されるようになったが、これまでの畜産経営の規模拡大化、地域的偏在により、生産された堆肥を経営内・地域内においていかに有効に活用していくかが課題となっている。 また、市街化・混住化の進展、家畜飼養規模の拡大等に伴い畜産経営に起因する環境問題が発生し、健全な発展にとって早急に解決しなければならない課題となっている。特に悪臭関連の苦情件数は平成24年度66件発生し、苦情全体の7割を占めている	【施策の必要性】 A：状況の変化等により必要性が増大している B：従前どおりの必要性が求められている C：状況の変化等により必要性は後退している D：目的を達成し、必要性は薄れている
	【事業のねらい・具体的内容】 ・資源循環型農業の推進を図るため、堆肥の流通利用に必要施設や機械の整備等について補助する。 ・水特法の指定を受けた長野原町の農家が、リース事業で整備した施設や機械について毎年度支払う基本貸付料に対し補助する。 ・家畜排せつ物法猶予期間中にリース事業で施設や機械を整備した農家の附加貸付料に対し補助する。	【目標に対する貢献度】 A：予定を上回る効果 B：ほぼ予定通りの効果 C：予定を下回る効果 D：現時点で判断できない
〔H24年度決算額〕 9,086千円 〔国庫補助〕 〔県単独〕	【24年度事業実績とその効果】 実績 ・耕畜連携堆肥流通支援事業 県単補助事業 1/3 補助(県下5戸) ・畜産環境リース緊急整備事業 基本貸付料の補助(長野原4戸) ・畜産環境リース整備促進事業 附加貸付料の補助(県下179戸) 効果 家畜排せつ物処理施設や堆肥流通利用施設の整備を進めたことで、家畜排せつ物法に則した排せつ物管理が促進され、有効資源の利活用が促進されるとともに、地域の畜産環境保全が図られた。	【成果・活動指標の傾向評価】 ○：全体として目標に向かっている (改善傾向) ：全体として厳しい状況(悪化傾向) ：横ばいの傾向
〔H25年度予算額〕 7,509千円 〔国庫補助〕 〔県単独〕	【今後の方針】 ・畜産系バイオマスの有効利用を図るため、堆肥流通利用施設の整備を進める。特に24年度からは集落営農集団等耕種農家組織をも対象に事業推進を図り、より効率的な耕畜連携を図る。 ・バイオマス利活用推進事業により家畜排せつ物の有機化を推進し環境保全型畜産経営の推進を図る	【施策の手法・効率性】 A：概ね妥当と考える B：部分的見直しが必要 C：大幅な見直しが必要 D：廃止・休止の方向

(2) 成果(活動)指標・関連データの推移

指標名	指標の推移					目標	傾向・要因分析
	2011	2012	2013	2014	2015	目標年次	
畜産資源系バイオマスの有効利用率	78%	78%				79% 2021年	利用率をほぼ横ばいに保ち、家畜排せつ物の削減を図ることで、環境への負荷を低減させる。

群馬県バイオマス活用推進計画進捗点検調査票（事業別個票）

調査対象年度 平成 24 年度

バイオマスの種別	取組方針		個票 No
木質資源	c 需要の拡大	公共施設等へのペレットボイラー、ペレットストーブ等の導入を推進します。	7

(1) 事業の実施状況

事業名	事業概要	事業評価
群馬県林業・木材産業再生緊急対策事業（森林整備加速化・林業再生基金） 平成 21 年度 ～平成 25 年度 (担当課) 林業振興課	【現状認識・課題】 ・県内の木質ペレット生産は、1,050 t (平成 24 年次) で、生産目標 2,600t に対して達成率 40 % となっており、生産能力には余裕がある。また、県内のペレット利用量は約 741t で、生産目標量 2,600 t に対して 46 % と少なく、製造能力に見合った需要先が確保が課題となっている。 一方、県内の燃料用チップは、現在ほとんど生産されていない。	【施策の必要性】 A : 状況の変化等により必要性が増大している B : 従前どおりの必要性が求められている C : 状況の変化等により必要性は後退している D : 目的を達成し、必要性は薄れている
	【事業のねらい・具体的内容】 ・チップー等の木質バイオマス供給施設整備を促進することにより、木質バイオマス発電所等への安定的な燃料供給体制を構築するとともに、従来の石油燃焼機器からペレットストーブ・ボイラーなどの木質バイオマスエネルギー利用施設への転換を促進することにより、木質バイオマスの需要拡大を図る。	【目標に対する貢献度】 A : 予定を上回る効果 B : ほぼ予定通りの効果 C : 予定を下回る効果 D : 現時点で判断できない
〔H24年度決算額〕 263,319 千円 (国庫補助) 県単独	【24年度事業実績とその効果】 ・木質ペレットボイラー 2 台 ・木質ペレットストーブ 40 台 ・チップー 1 台	【成果・活動指標の傾向評価】 ○ : 全体として目標に向かっている (改善傾向) ○ : 全体として厳しい状況(悪化傾向) ○ : 横ばいの傾向
〔H25年度予算額〕 860,479 千円 (国庫補助) 県単独	【今後の方針】 ・引き続き、木質バイオマス供給施設や木質バイオマスエネルギー利用施設等の導入を支援し、木質バイオマスの供給・利用の促進を図る。	【施策の手法・効率性】 A : 概ね妥当と考える B : 部分的見直しが必要 C : 大幅な見直しが必要 D : 廃止・休止の方向

(2) 成果(活動)指標・関連データの推移

指標名	指標の推移					目標	傾向・要因分析
	2012	2013	2014	2015	2016	目標年次	
木質ペレットボイラー	2 台						
木質ペレットストーブ	40 台						
チップー	1 台						

